

森之宮から始まる「共創」の まちづくり—知と人をつなぐ都市型キャンパス

大阪公立大学
学長

櫻木 弘之



大阪公立大学は2025年9月、大阪東西都市軸の要衝である森之宮に、新たに「森之宮キャンパス」を開設しました。大阪城を中心に歴史と文化が息づくこの地に、約6,000名の学生・教職員が日常的に集う場が生まれ、まちの風景に「学び」と「挑戦」が加わります。この地に新たな拠点を構えることができたことは、大きな喜びです。地域社会とともに、大阪の未来を創る新しい挑戦がここから始まります。加えて、「地域に開かれた大学」の象徴として、公開講座やイベント、企業や地域の皆さまとの交流・共創の場としても活用してまいります。

森之宮周辺は、大阪の都心再生が最も期待されているエリアのひとつです。古くからの暮らしと新しい産業・文化が共存するこの地域で、大学が都市型キャンパスを開くことには、学びと研究を「日常の風景」に溶け込ませ、都市の再生を後押しし加速させる力があります。私たちが目指すのは、大学が行政・

企業・市民の皆さまと課題を共有し、その解決に向けた「産学官民共創」の中心拠点となることです。

本学は、人文社会系から理工系、医療生命系、学際系までの多様な学術領域を擁しています。この強みを生かし、異分野が連携・融合して産官民と共創することにより、複雑な社会課題の解決や新たな価値の創造を目指し、その成果を地域・社会に還元し実装していくことが期待されています。その仕組みとして本学が取り組んでいるのが「イノベーションカデミー事業」です。各キャンパスに産学官民が共創する「リビングラボ」を設置し、これらをネットワークで結んで、複雑な都市課題の解決や新たな価値の創出を目指すものです。森之宮キャンパスは、その中枢的役割を担います。具体的には、スマートシティやスマートエネルギー、スマートヘルスなど複数の共創研究ユニットを設け、AIも活用しながら共創を進めています。

2023年度には、「イノベーションカデミー事業」の推進による、持続可能で成熟した都市の形成をめざす取り組みが、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（JPEAKS）」として採択されました。国内有数の研究大学として、研究環境の充実と国際競争力の強化にも取り組んでいます。

同時に、森之宮は全学部・学域の新入生が分野を超えて集い、基幹教育を通じて学びの基礎を身につける場でもあります。幅広い教養と確かな専門の入口を同じ空間で共有することは、視野を広げ、将来の学際的な学びや共創の素地を育てます。さらに数年先を別途に、森之宮地区のまちづくりと歩を合わせた、新たなキャンパス整備と機能強化も計画しています。これからの時代に不可欠な最先端の情報学や国際化に即応した教育研究、社会人大学院の充実など、社会からの期待と信頼に応え、貢献するための基盤を築いてまいります。大阪関西、そして世界の未来を支える一翼を担うべく、これからも本学は歩みを進めてまいります。

櫻木 弘之(さくらぎ ひろゆき)

1957年生まれ。九州大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)。専門は原子核物理学。東京大学原子核研究所を経て、87年より大阪市立大学理学部・大学院理学研究科で勤務。講師、助教授を経て99年より教授。理学部長・理学研究科長、副学長、理事等を歴任。

2022年4月の大阪公立大学発足時より同大学理事・副学長、25年4月より学長に就任(公立大学法人大阪 副理事長、大阪市立大学学長、大阪府立大学学長も兼務)。大阪市立大学名誉教授。